

◎団地に残る塔は？

東豊中第二団地にある、41メートルにもなる白い塔。これは給水塔で、今も団地に住む人に水を供給しています。中にあるポンプで一度水をくみ上げて、そこから各家庭に水を送る仕組み。このような給水塔が残されているのはとても珍しいことです。



池は自然が
いっぱい！



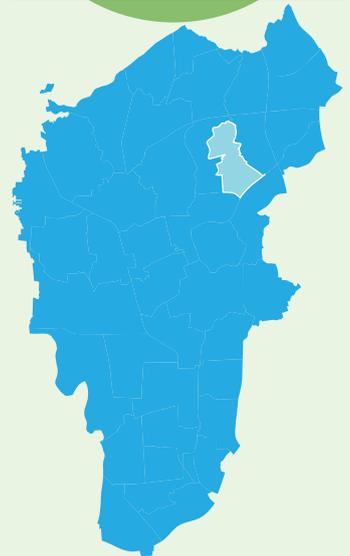
マチカネくんと歩く

まちある記

第15回

住宅開発の歴史が感じられるまち
東豊中町を巡る

東豊中小学校区



5月・10月が見ごろ 市の花・バラの名所

⑤ ニノ切池公園 (東豊中町5丁目)

ニノ切池を一部埋め立てて造った公園。市内で一番大きいバラ園があり、6メートルの高低差を利用した斜面には、61種類約1,000株のバラが植えられています。園内には大きな芝生広場も。寝そべったり走り回ったり、みんなとても楽しそうです。



緑の見える、 ゆったりとした図書館

④ 東豊中図書館(東豊中町5丁目)

市立ゆたか幼稚園が入っている建物の3階が東豊中図書館です。窓からは、幼稚園の園庭も見えます。大きな図書館ではありませんが、子ども向けの本が充実していて、ゆったり過ごすことができると地域のの人に愛されています。



校区の北部は戦前に開発された住宅地、中部は高度経済成長時代に開発された団地、西部には近年建設されたマンションなど、このまちには豊中の住宅開発の歴史が詰まっています。また、大きな池が多く残り、緑豊かな地域です。

緑が美しい池

① 深谷池(東豊中町3丁目)

池の周囲は緑に囲まれ、花や木々など、季節によりいろいろな魅力を見せます。この周辺は、昭和8年(1933)から住宅地として造成。当時としてはとても大きな規模の開発でした。



レンガづくりの記念館

② 公文公くもんとおる記念館(東豊中町4丁目)

閑静な住宅地の中に、公文式学習法の創始者、公文公さんの旧宅があります。現在では記念館となっており、公文式の歴史を紹介する資料や、公文さんが使っていた書斎が展示されています。火曜・水曜・木曜日(祝・休日は除く)に見学できます。



◎空を覆う並木

校区最大の池、三ツ池南西部分の砂利道。120メートルにわたって桜の木が植えられ、花の時期には淡いピンク色に染まります。今は緑のトンネルになり、訪れる人に涼しさを与えています。



子どもと高齢者の元気が集まる場

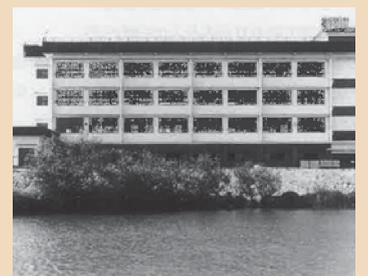
③ 東豊中保育所・東豊中老人憩の家(東豊中町5丁目)

建物の1階と2階の一部は保育所として、2階の別の部分が老人憩の家として活用されています。老人憩の家には、老人クラブなどの自主的な活動の場として、囲碁や体操、大正箏、編み物を楽しむ高齢者が集まっています。



◎校庭は池だった!

昭和42年(1967)に東豊中小学校が開校した当時は、現在の校庭部分は「西谷池」という池でした。そのため、運動会は隣の上野小学校(上野東)で実施されたそうです。その後、池は埋め立てられ、開校から2年後に運動場が完成しました。



虫捕りもできるかな。



8月号は、小曾根小学校区をご紹介します。お楽しみに。